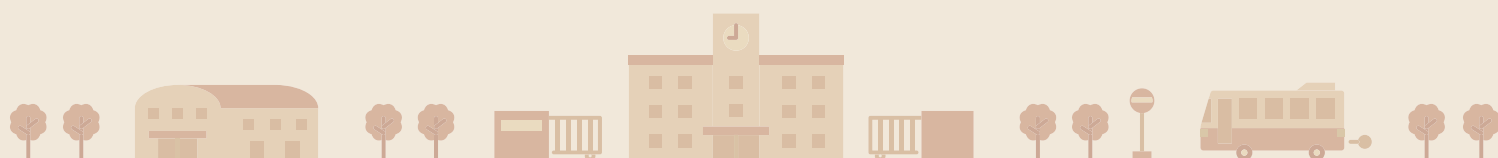


新潟県教育への提言

2025



新潟経済同友会
2025年3月

はじめに

本格的な人口減少社会を迎えた我が国にとって、生産年齢人口の減少が新潟県の教育そして産業界にさまざまな影響を与えている。これまで新潟県教育委員会では減少する中学校卒業者数に対応するため、県立高校の再編によって教育の質の確保を図ってきた。

2024年12月3日付の新潟県教育委員会「県立高校の将来構想」では、令和7年度(2025年度)の募集学級で、全日制課程で1学級規模校が9校、2学級規模校が14校という状況であり、また1～3学級募集の小規模校が41校53%となり県立高校の小規模化の進行が新潟県教育の課題となっていることが報告されている。

新潟県内の担い手不足も周知のとおり最重要課題である。新潟県の経済を支える多くの企業が、慢性的な人材確保に苦慮している。人口減少による県内高校の再編計画と新潟県の発展を支える企業の人材確保の観点から、新潟で働く人材を増やすことが大切である。われわれ新潟経済同友会は、会員企業の魅力度向上を進め、若者が新潟で活躍したいと思う企業となる活動に尽力する所存である。

同時に、新潟経済同友会は、新潟県教育委員会の「県立高校の将来構想」を強く支持するとともに構想を実施するにあたり、新潟県教育委員会及び県内全ての教育機関に向けて5つを提言する。

新潟経済同友会

代表幹事 吉田 至夫

代表幹事 並木 富士雄

代表幹事 山井 太

教育問題委員会

提言 1

県立高校の将来構想への提言

人口減少による県内高校の再編計画と新潟県の発展を支える企業の人材確保の観点から、全県で「普通科系学科・コース」と「産業高校」をバランスよく配置すること。

1. 「産業高校」は、農業・工業・商業・家庭・水産等県内経済の中心的な担い手として活躍する人材を育成する教育機関として重要である。担い手の確保を視野に入れた学校カリキュラムの導入と学校数の確保を提言する。
2. 全県高校生徒の2割が通う私立高校の削減については、生徒の学びの選択と民間活力の観点から、私立高校の活力が削がれることの無いよう配慮を提言する。
3. 県が平成22年から実施している「魅力ある高校づくりプロジェクト」導入校である、伝統的な日本の木造建築技術を学ぶことができる「新津工業高校」の日本建築科、工業マイスター科と乗船実習や商品開発の実践など全国有数の水産海洋系高校である「海洋高校」の水産科との両校両科は、特に新潟県の産業強化への寄与があることから、各校の魅力的な活動を県外へも広くアピールし、入学者数の増加を図るよう提言する。

提言 2

高校・大学・産業界の連携強化

人口減少と都会への流出を止めるために、県内の高校、大学、専門学校、企業集団が連携し、一貫して新潟県の人材教育や新潟県の産業教育を行う。あわせて新潟県の発展により寄与する人材を輩出できるようなプラットフォームの設置を提言する。

1. 東京をはじめとした都市部への人口流出を減速させるためにも、県内での進路進学を選択肢を今まで以上に明確に提示する必要がある。
2. 高校、大学、専門学校、企業集団が連携することで、県内での進路進学に繋がって行くことができる。
3. 人口減少により、学校規模が縮小していくことをとらえ、関係機関が連携することで提携・統合等を実現することが期待できる。

提言 3

出前授業、インターンシップの 将来像への提言

「出前授業」や「インターンシップ」の実施が学校現場や教育機関において、一定の効果を上げている。特に、「キャリア教育」「県内産業教育」「企業研究」は、今まで以上に民間へのアウトソースをするよう提言する。

1. 新潟県には農業ビジネス、製造業、食品加工業、情報産業等様々な産業があり社会をけん引している。新潟県の産業や企業を知ってもらうための「出前授業」、「インターンシップ」は、生徒自身がより身近で容易に情報を入手することができる機会である。新潟県で働きたいと考える児童生徒を増やすためにも、一層の取り組みを提言する。
2. 民間へアウトソースすることで、実社会を体験することができる。よって児童生徒はより一層社会への興味関心を持ち、学校での学びをより主体的にできるようになると考える。
3. 授業をアウトソースすることで、多忙化している教職員の時間確保にも繋がると考える。

提言 4

教職員の職場環境改善に向けた ICTを活用した将来像への提言

ICT活用は教育の場に急速に取り込まれている。更に積極的な予算配分により校務DXを進めるためのICT投資を行い、教職員の業務の負担軽減を図ることを提言する。

1. 今後も教職員不足が懸念され、休職・転職者の増加と教員志望者の減少は大きな社会問題である。民間の働き方改革は、次の段階に進み労働時間の見直しにとどまらず、心身の健康確保を重視している段階にある。教育現場でも十分な財源をあて、人員の計画的な補充や業務内容の見直しなどを現場との対話を惜しまずに進めることを提言する。
2. 教育DXで教材の共有化を図り、不登校児童生徒のリモートによる授業参加などの柔軟な対応も検討するなど、教職員の授業以外の業務削減を進めるよう提言する。

3. 教職員の職場環境改善に向け、教職員個人の業務裁量を広げ過ぎないこと。業務の平準化を進め、業務を共有管理することで教職員の負担軽減を目指すことが大切です。
4. 教職員が担う本来の役割を組織的に検討し、ICT活用に繋げる工夫を続け時間を創出し、児童生徒への指導時間を増やせるようにする。教職員が幸せを感じられる魅力ある職場を創造していくことを提言する。

提言 5

教育機関と新潟経済同友会との連携の提言

児童生徒の学びの場の提供や、ふるさとの美しい自然と脈々と受け継がれてきた文化を愛し守り育てる人材の育成のため、教育機関と新潟経済同友会が一層連携することを提言する。

1. 教育機関の課題や方向性を理解し、それを経済界が支援していく必要がある。
2. 教育機関から新潟経済同友会へ人材を派遣し人事交流を行う。新潟経済同友会は、児童生徒のキャリア教育に寄与するよう積極的に支援交流する。
3. 教育機関と新潟経済同友会との連携により、共同の社会貢献活動やイベントを通じて企業で働く人となりや企業の活動・理念について直接聞くことができる機会を創出する。学生と企業が交流できる場を通じて、企業が学生の就職先候補として検討いただけるよう関係者が尽力する。

【資料１】教育問題委員会の活動経過（2023年度から2024年度）

2023年度	
開催日	内 容
6月20日	正副委員長会議
7月27日	第1回委員会 会場：三条市立大学(23名出席) 演題：「三条市立大学のキャリア教育、 若者の県内定着への取り組みについて」 講師：三条市立大学理事長・学長 アハメド シャハリアル 氏 
6月20日～7月13日	新潟大学創生学部フィールドスタディーズ(学外学修)会員企業5社にて学生受入れ
7月26日～27日	新潟大学創生学部フィールドスタディーズ(学外学修)最終プレゼンテーション
9月19日	第2回委員会(令和5年度5経済同友会教育担当委員会交流会) 会場および視察先：ヒルトン名古屋、瀬戸市 にじの丘学園(7名出席) 
11月24日	第3回委員会 会場：新潟グランドホテル 演題：「キャリア教育の取り組み『生き方の授業』について」、「学生の就職動向と価値観」 講師：学校法人国際総合学園NSGカレッジリーグ総務部生涯学習推進室 鈴木 弘明氏、同法人総務部就職推進課 課長 佐藤 勇太郎氏 
1月31日	第4回委員会(第1回新潟県教育委員会との意見交換会) 会場：新潟グランドホテル 講話：「デュアルシステムの取組状況と当会との協力体制について」、「県立高校の再編計画」、「デジタル人材の育成に係る現状と課題」 
2月20日	正副委員長会議

2024年度	
開催日	内 容
8月6日	第1回委員会 会場：ホテル日航新潟 演題：「企業と学生をつなぐサードプレイス 『NOT THE UNIVERSITY』～Z世代の学生・企業の動向について」 講師：株式会社ラクウェブ 取締役 大塩 優多氏 
6月25日～7月18日	新潟大学創生学部フィールドスタディーズ(学外学修)会員企業5社にて学生受入れ
7月30日～31日	新潟大学創生学部フィールドスタディーズ(学外学修)最終プレゼンテーション
10月31日～11月1日	第2回委員会(令和6年度5 経済同友会教育担当委員会交流会) 会場および視察先：パレスホテル大宮、 さいたま市立大宮国際中等 教育学校他(5名出席) 
12月17日	正副委員長会議
2月3日	正副委員長会議

【資料2】出前授業の活動経過(第50回以降)

回	開催日	学校名(対象)	テーマ
第50回	2022年6月1日	新潟工科大学	学内企業実習「工学プロジェクト」講演
第51回	6月16日	柏崎市立第三中学校	働くことの意義・楽しさ、社会に出る心構え
第52回	9月5日	新潟工科大学	学内企業実習「工学プロジェクト」講演
第53回	9月12日	特別支援学校校長会	新時代における校長の役割と教職員の人材育成
第54回	9月28日	新潟県市町村総合事務組合	「働きやすい職場づくり」に向けた取組み
第55回	9月29日	新潟産業大学	(株)阿部建設のSDGsの取組み
第56回	10月7日	新潟産業大学	新潟の産業・企業を知る講座「新潟産業大学地域振興論」
第57回	11月5日	公孫会特別支援学校校長・教頭会	企業に学ぶ組織マネジメント
第58回	11月11日	トライ式高等学院新潟キャンパス	働くこと、学ぶこと、社会に出る心構え
第59回	12月9日	新潟県立正徳館高等学校	社会に出る心構え、チャレンジする意義、これからの社会で求められること
第60回	2023年6月5日	長岡市立江陽中学校	ハードオフの企業経営とは
第61回	6月29日	妙高市立妙高中学校	働く上でのやりがい、大切にしたいこと
第62回	7月31日	新潟県高等学校長協会商業部会	働き方改革について、組織マネジメントについて
第63回	8月23日	新潟県市町村総合事務組合	「働きやすい職場づくり」に向けた取組み
第64回	9月11日	新潟県特別支援学校校長会	リーダーになりたいと思わせるリーダーとは？
第65回	9月28日	新潟市立新潟柳都中学校	未来を見据えた学校生活、2040年の未来を考えよう
第66回	10月31日	新潟県市町村総合事務組合	会社経営から学んだこと
第67回	11月24日	新潟市立上山中学校	これからの私たちに必要な力とは何か
第68回	12月2日	五楽会研修会	ミドルリーダーを育てる教職31年目の在り方とは
第69回	12月8日	新潟県立正徳館高等学校	社会に出る心構え、チャレンジする意義、求められること
第70回	2024年5月29日	新潟市立下山中学校	社会で働くということ
第71回	6月26日	新潟市立南浜中学校	職業選択について
第72回	6月27日	新潟市立新潟柳都中学校	強い想いと新たな発想や創造を生かして人に役立つ(アントレプレナーシップ)、10年後につなげる
第73回	7月5日	新潟市立新津第二中学校	働く上でのやりがい、大切にしたいこと、社会の中でよりよく生きていくために必要な力について
第74回	7月15日	長岡市まちなかキャンパス	新潟県高校生会議「学校交流サマースクール」
第75回	7月16日	新潟県立教育センター	これからの社会で求められる力、高校生が身に付けるべき力
第76回	10月17日	新潟県立出雲崎高等学校	社会を知る
第77回	10月22日	三条市立保内小学校	働くとは
第78回	10月30日	長岡市立前川小学校	働くことについて、社会に出る心構えについて
第79回	12月4日	新潟市立横越中学校	私たちが社会で生きていくために必要な力とは何か
第80回	12月6日	新潟県立正徳館高等学校	社会に出る心構え

【資料3】教育問題委員会名簿

委員長	阿部尚義	(株)阿部建設 代表取締役
副委員長	佐野由香利	(株)新宣 代表取締役会長
	金井利郎	金井度量衡(株) 代表取締役
	坂爪豪	(株)中央コントロールズ社 代表取締役
	藤田英樹	社会保険労務士法人ふじた事務所 代表社員
	肥田野正明	(株)バウハウス 代表取締役
委員	青柳早苗	(株)日青堂 代表取締役
	池田弘	(学)新潟総合学園 総長
	石橋正利	(株)総合教育研究所 取締役会長
	今井誠	(弁)一新総合法律事務所 非常勤顧問・弁護士
	梅津雅之	(株)BSNアイネット 取締役会長
	大塩優多	(株)ラクウェブ 取締役
	加藤幸久	(株)メビウス 代表取締役社長
	金子秀樹	(株)琴源 代表取締役社長
	木村大地	(株)アイセック 代表取締役
	木村由美	(株)西武商会 代表取締役副社長
	小平勝志	(株)アイ・シー・オー 代表取締役
	小林吾郎	(株)プラスパッケージ 代表取締役
	品田史夫	(株)品田電業社 代表取締役
	清水心一	オリックス(株) 新潟支店長
	関口健之介	(株)フジ・クリエイティブセンター 代表取締役社長
	高堂景寿	相互技術(株) 代表取締役社長
	富山栄子	(学)新潟総合学園 事業創造大学院大学 副学長・教授
	中野貴司	中野建設工業(株) 代表取締役社長
	中山輝也	(株)キタック ファウンダー
	中山正子	(株)キタック 代表取締役社長
	南雲二郎	八海醸造(株) 代表取締役
	西嶋弘重	(株)広報しえん 代表取締役
	野口一則	(株)シアンス 代表取締役社長
	野沢慎吾	セコム上信越(株) 代表取締役会長
	長谷川克弥	ハセガワ化成工業(株) 代表取締役社長
	廣田幹人	新潟総合警備保障(株) 代表取締役社長
	本間英樹	有希化学(株) 代表取締役
	三井慶昭	三井企画(株) 代表取締役
	山本和則	(株)ジャパンネット 代表取締役社長
	横山昇	横山建設(株) 代表取締役社長
	吉田康	(株)ブルボン 代表取締役社長
	鷺頭加思郎	(株)ワシヅ設計 代表取締役社長



新潟経済同友会

〒950-0078 新潟市中央区万代島 5 番 1 号 万代島ビル 14 階

TEL : 025-241-1151 FAX : 025-241-7100

H P : <https://www.niigata-doyukai.jp/>